

能登半島地震の被災地に派遣された教員に話を聞きました。

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震。そこでは看護学科の石川幸司教授が厚生労働省の災害派遣医療チーム「DMAT」の一員として、薬学科の山下美妃教授が日本薬剤師会からの要請を受け、それぞれ現地に派遣され、医療支援活動を行いました。

2人は東日本大震災などの被災地でも医療活動を行ってきた災害医療のスペシャリストです。その2人が能登半島地震の被災地ではどのような活動を行い、どのようなことを経験してきたのか。さらには自身が経験したことを教育の現場でどう伝えていきたいかを語ってもらいました。日頃は教壇に立ち、いざというときには最前線に立つ、日本の災害医療を支える2人からの報告を、ぜひ一読ください。



特別対談の続きは
こちらをご覧ください



法人創立100周年記念事業寄付金ご協力をお願い

学校法人北海道科学大学は2024年8月10日をもって、法人創立100周年を迎えました。同日に開催いたしました「法人創立100周年記念セレモニー」では、多くの皆様にご来場いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。引き続き、本法人が今後目指す「次の100年」を社会に発信するべく、多くの方の想いが反映されるよう諸事業の展開を計画しています。12月には、法人創立100周年記念事業最後のイベント「HUSキャンパス・イルミネーション2024」を手稲前田キャンパス内にて開催いたしました。

法人創立100周年記念事業寄付金の報告としまして、2025年1月末で、累計199,885,000円の寄付を賜っております。皆様からのご厚志に心より感謝申し上げます。

引き続き諸事ご多端の折、誠に恐縮ですが、寄付の趣旨にご賛同していただき、卒業生、保護者、地域社会の皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

応募期間

2025年
3月31日まで

応募の対象

個人の方
「一般有志・卒業生・保護者・教職員」
一口につき5千円

法人の方
「企業・団体」
一口につき5千円

寄付の詳細につきましては、法人創立100周年記念事業寄付金サイトにてご確認ください。

法人創立100周年記念事業寄付金サイト > <https://ed.hus.ac.jp/100th/donation/>

こちらからも
ご確認ください



北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2025年2月17日(第223号)



北海道科学大学

〒006-8585 北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
TEL: 011-681-2161(代表) FAX: 011-688-7639(代表)
HP: <https://www.hus.ac.jp/>

+Professional

ヒューマニティ、コミュニケーション力、課題発見解決力、自己実現力
といった基盤能力を基に、専門性を身につけた人材を育成します。
すべての設置校に共通する、わたしたちのスローガンです。

専攻 北海道科学大学
法人 北海道科学大学高等学校
北海道自動車学校

HUS
NEWS
LETTER

Vol.46 / Hokkaido University of Science

INDEX

01| 特集 法人創立100周年記念事業を振り返る

05 | 学生の活躍

09 | 卒業生訪問

07 | 研究室から

10 | HUS調査隊

北海道科学大学 HUS NEWS LETTER 2025年2月17日(第223号)

未来をひらく、
100周年メモリアル北海道科学大学
+Professional2024年・100周年
共に未来をつなぐ

特集

100th Anniversary Event 2023-2024

法人創立100周年

記念事業を振り返る

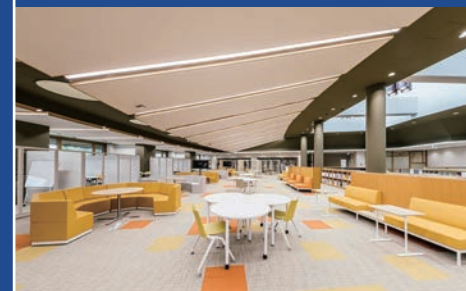
北科大では2023年4月の北海道科学大学高等学校の校舎移転を皮切りに、学校法人北海道科学大学創立100周年記念事業として、さまざまなイベントを企画・実施してきました。その中から、いくつかをピックアップし、100周年イヤーの軌跡を振り返ります。

今回の100周年を機に、学校法人北海道科学大学では新たなブランドビジョン「とことん、ひらこう。」を掲げました。次の100年に向けてとことんひらき、その先へと進んでいく私たちのこれからは、どうぞご期待ください。

2023年
4月北海道科学大学高等学校
前田キャンパス移転

札幌市豊平区中の島にあった北海道科学大学高等学校が大学のある前田キャンパスに移転しました。総面積約13,000平方メートルの新校舎が誕生し、オープンな空間で、高大一体型の教育がスタートしました。

4月8日

100周年記念会館
「HUS+H」オープン

高校の移転に続いて、図書館を「100周年記念会館」としてリニューアル。多目的に利用できる施設に生まれ変わりました。さらに愛称を在学生から公募し、293件もの応募から工学部 電気電子工学科の西田謙人さんの「HUS+H」(ハッシュ)に決まりました。

法人創立100周年記念事業
オープニングフェスHUS
OPENING
FES

北海道科学大学高等学校の校舎移転と、100周年記念会館「HUS+H」のオープンを合わせてイベントを開催。卒業生デュオ「SE-NO」のライブ、在学生や北海道科学大学高等学校の高校生によるパフォーマンス、さらにはタレントや政治評論家などマルチな活躍で知られる杉村太蔵さんを招いての特別講演などを実施し、100周年記念事業のオープニングを華々しく彩りました。

9月23日

「JITAN PARK -
北海道自動車短期大学
記念展示室」としてオープン

「北海道自動車短期大学」の歴史と自動車工学の歴史を後世に残していくための記念展示室が、2022年に閉学した北海道科学大学短期大学部の車検実習場を活用して作られました。



9月23日

「桜並木プロジェクト100本達成記念植樹」を開催



100周年を迎える2024年に100本の桜が咲くことを目指し、2020年から毎年、ソメイヨシノを前田キャンパス構内に植樹してきました。そして、100周年を翌年に迎えたこの日、北海道科学大学高等学校の敷地内に100本目の記念植樹が行われました。

2024年
4月20日

春の歓迎バーベキューデーを開催



100周年イヤーは、前田キャンパス構内での歓迎バーベキューデーから始まりました。新入生や新任の教職員を歓迎するため、学生、教職員、北海道科学大学高等学校の生徒・教員あわせて約720名が集い、学部や学科はもちろん、部活動などの垣根も越えた交流を楽しみました。



ジュージュー!



7月14日

第33回 ていね夏あかり



手稲区の夏の風物詩も100周年記念事業として開催しました。地域の子もたちが制作した約8,000個の提灯が大学の敷地内に並び、多くの人たちににぎわいました。

8月10日

法人創立100周年記念セレモニー「LIVE!」



記念すべきセレモニーは、「札幌文化芸術劇場hitaru」を会場に華々しく開催。「LIVE!」をコンセプトに高校生、大学生がさまざまなパフォーマンスを繰り広げ、苔米地司理事長はT型フォードに乗ってステージに登場。学校関係者や卒業生、教育関係者などの招待者1,583人とともに100周年を祝いました。

6月24日

北海道自動車学校開校100周年記念式典を開催



法人創立とともに開設した北海道自動車学校も100周年を迎え、式典では新校舎や新教習車両のお披露目、街歩き研究家の和田哲氏を招いての特別講演などを行いました。

7月6日

「HUSサイエンスパーク」開催



子どもたちに理科や科学のおもしろさに触れてもらうために企画した実験・体験イベントを行いました。小学1年生から4年生が対象で、300名の定員に3倍以上の1,000名の応募が来るほどの人気ぶり。当日も大盛況でした。

9月15日・10月19日

手稲山の日記念 ウォークイベントを開催



9月に開催した手稲山を登る秋イベントはあいにくの雨模様でしたが、そのおかげで雨に濡れた美しい新緑の中を歩くことができました。10月には、サッポロディネ・オリンピックスキーセンターで初開催された「Mt.TEINE Outdoor Fes 2024」のイベントの一環として、オリンピックスキーセンターをスタート地点とした約3.5kmのウォークイベントを開催しました。

9月21日・22日

大学祭「稲峰祭」を開催



百にちなんだ「佰(もも)」をテーマに、参加者全員で法人創立100周年を盛り上げようと臨んだ大学祭。2日間で1万人を超える来場者が訪れました。

12月5日-25日

HUSキャンパス・イルミネーション2024



100周年記念事業のラストを締めくくったのは、8年目を迎えた光のイベントでした。中でも点灯式はフィナーレを飾るにふさわしい華々しさで、式典にはかがくガオーに加え、本学と連携協定を結んでいる地方自治体のマスコットキャラクター7体が登場し、会場を大いに沸かせました。



キレイ!

ゴーゴー!



法人創立100周年記念「オリジナルブレンド」



当日は北科大の珈琲倶楽部が作ったブレンドコーヒーが記念品として配られました。

珈琲倶楽部 部長
工学部 機械工学科 3年
和田 侑士さん

詳しくは、P05をご覧ください



法人創立100周年記念「さっぽろワイン」+「農業組合法人大地の雫」コラボワイン

当日配付されたワインは、北科大の学生や教職員がブドウの収穫や瓶詰め作業に参加し、ラベルデザインは学生が手掛けました。



2035ブランドビジョン

とことん、ひらこう。



どこでも学べて、どこでも働ける時代に、大学の役割とは。それは、活発な交流のできる場があることだ。壁など必要はない。地域にがっつきひらいていく。立場や前例には、こだわらない。発想もコミュニケーションも、思いきりオープンに。実践と解決を、止めない。北海道の幸せのために、ここ手稲から。



珈琲倶楽部

COFFEE CLUB

産地、ブレンドや焙煎度、器…

知るほどハマるコーヒーの世界。

その奥深さに魅了されてみませんか？

ひかれるポイントは人それぞれ。
コーヒーの魅力は一つじゃない。

珈琲倶楽部は2020年に同好会として発足し、2024年12月に正式な部になりました。毎週火曜日、大学の食堂の一角を借り、コーヒーを抽出して飲み比べたり、不定期でカフェを巡ってコーヒーの知識を深める活動を行っています。部員数は約70人。純粋にコーヒーが好きなのはもちろん、カフェ巡りが好きな人、お店の雰囲気やインテリア、店員さんとの会話、抽出器具に興味がある人など、コーヒーとの向き合い方もさまざまです。

入部条件は特にありません。コーヒーのことを全然知らない人でも大歓迎です。3代目部長の私も、コーヒーにハマったのは大学に入ってからです。コーヒー好きの友達から同好会に誘われたのが

きっかけでした。入部して初めてカフェに行き、その後、全国のコーヒー店が集まるイベントで、ただ苦いだけじゃないコーヒーのおいしさとおもしろさに目覚めました。今では東京で行われるコーヒー業者向けの展示会にも個人的に足を運ぶほど、コーヒーの虜になりました。

私にとって、コーヒーを飲む時間は完全に日常の一部です。お気に入りの豆を買って自分で挽いてみると、いい香りが漂ってきて、それだけで気分が上がります。家では思いつきくつろぎながらコーヒーを楽しんでいます。カフェではお店の方とよくおしゃべりするので、いつも新しい発見があります。

法人創立100周年を記念して
オリジナルブレンドに挑戦！

2024年8月に開催された学校法人北海道科学大学創立100周年記念セレモニーでは、私たちの作ったオリジナルのブレンドコーヒーが記念品としてプレゼントされました。大学から声をかけてもらい、2023年6月からプロジェクトがスタート。本学の卒業生で菊池珈琲社長の菊池博樹さんよりアドバイスを受けながら、単品のコーヒーを抽出しては試飲し、ブレンドしては抽出して試飲し、というコー



ヒー漬けの毎日を送り、ひと夏かけて考えた試作品をまずは大学祭で提供しました。さらに微調整を加え、最終的に完成したのは、個性豊かな「HUS」「祝福」「異香（いきょう）」「轍（わだち）」の4種類のオリジナルブレンド。納得のいくものができ上がるまで約半年を費やし、パッケージデザインも自分たちで手がけました。「HUS」は調和の取れたオーソドックスなブレンドで、「祝福」は酸味と香りが特徴で、名前に100周年を祝う気持ちを込めています。コーヒー豆とパッションフルーツと一緒に漬けて焙煎し、普通のコーヒーにはない香りを出した変わり種ブレンドは、「異香（いきょう）」と名付けました。特に苦心したのが、最後に作った

み始めと飲み終わりの温度変化によって味わいが変わるおもしろさも楽しめます。初めてのオリジナルブレンドだったので、式典で1,500人に配付され、4種類ともおいしいと言ってもらえた時は感慨深いものでありました。ブレンドを作る難しさを実感すると同時に、コーヒーに関する知識も増え、とても貴重な経験をさせてもらったと思っています。

最近の後輩たちにも責任感が芽生えてきたのでうれしく思っています。正式な部として、部員をもっと増やして、ますます本格的に活動し、大学に欠かせない存在へ成長していきたいです。

コーヒーの一番の魅力は、探求心や好奇心をくすぐられるところ。産地や農園、豆や焙煎度の違い、お店や焙煎した人によって味が異なり、器によっても味の感じ方が変わるため、飲むたびに新鮮な出会いが待っています。興味のある方は、ぜひ一度見学に来てください！



▲法人創立100周年記念セレモニー記念品、オリジナルブレンドコーヒー

工学部
機械工学科
3年

部長
和田 侑士さん

ACTIVITY CONTENT 活動内容

コーヒー好きが集う珈琲倶楽部では毎週1回集まって、みんなでコーヒーの飲み比べを楽しんでいます。さらに気になるカフェと一緒に巡ったりもしています。



DATA

珈琲倶楽部

[活動場所] HITプラザ2階
[部員数] 70人
[発足] 2024年



STUDENT ACTIVITY

学生の活躍



HUS CAMPUS NEWS 学内ニュース

学校法人北海道科学大学の
創立100周年記念セレモニーを
開催しました



詳しくは
こちらをご覧ください



手稲オリジナルショート映画
「空は澄む」に
本学学生が出演しました



詳しくは
こちらをご覧ください



ラジオ番組で
本学学生のInstallation Art作品が
紹介されました



詳しくは
こちらをご覧ください





高齢者も、障がい者も、誰もが自由に安心して移動できる未来を「感情を理解する乗り物」で実現！

研究室 In the Laboratory

から北科大で行われている研究の最前線をクローズアップ！



工学部 機械工学科
Ikeda Keigo

池田 圭吾
助教



研究室が貢献するSDGs目標

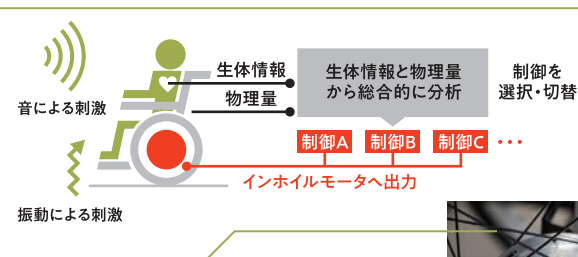
池田先生の研究室では、電動車いすや次世代モビリティの開発を通して、SDGsの目標実現に取り組んでいます。

外出をあきらめてしまう車いすユーザーを何とかしたい。それが研究の出発点。

――先生が研究テーマとされている「人の感情がわかる乗り物の開発」とはどのようなものですか？

私は、電動車いすをはじめとするパーソナルモビリティの加速度や振動を、動吸振器やインホイールモーター、リニアモーターなどの装置で制御し、乗り心地を向上させる研究をしています。この研究の特徴は、「乗り心地」を乗る人の主観ではなく生体情報を使って科学的に評価する点です。車いすが加速する時の心拍数変動や脳血流量を測り、そこから「怖い」「楽しい」「ワクワクする」「もっと加速がほしい」といった「感情」を読み取って、ホイールの電気モーターに入力し加速度を調整します。

実際の利用時に装置をずっと身につけたまま

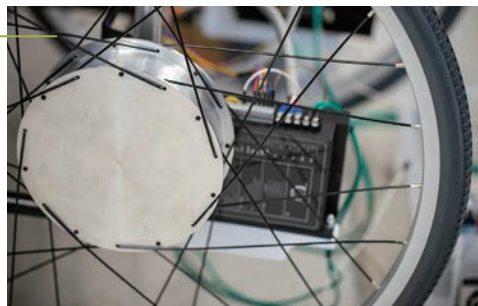


車いすに乗ることはできないので、今後はたくさんの方に実験に協力してもらい、収集した生体情報と、調整した加速度のデータを機械学習させて、研究に活かす予定です。

――なぜ、この研究テーマを選ばれたのですか？

パーソナルモビリティの乗り心地向上は、以前から研究していました。生体情報を機械学習させるアルゴリズムを作って、博士論文も取っています。機械と人をつなぐ研究をしていたこともあり、より親密に関わる車いすなどの「福祉」の世界に興味を持ったのがきっかけです。

車いすを利用する障がい者や高齢者にとって、ちょっとした振動でも痛みやストレスにつながることもあり、特に冬の北海道では、でこぼこした雪道が怖くて外出を控えるという人もいます。そうした影響で、車いすの性能によって移動が制限されることで、QOL（生活の質）が大きく損なわれてしまうのです。さらに地方にある老人ホームなどの施設では人手不足が深刻な問題になっていて、車いすがあっても入居者が満足に外出できていない現状があります。そこで、生体情報を利用し、介助者の手を借りなくても安心して乗れて、しかもワクワクするような、QOLが上がる車いすを開発しようと考えました。



乗り心地の好みも人それぞれ。学生や先生方の協力を得て、膨大な量の生体情報を収集。

――研究はどのように進めているのですか？

ゼミ生と一緒に構想を練り、2024年から本格的に研究をスタートさせましたが、私が博士論文で取り組んだ内容がベースになっているので、車いす自体は半年程度で完成しました。今は、前後方向の加速度変化でどんな心理状態になるのか、どれくらい個人差が出るのか、実際に乗ってみて生体情報を集めて調べている段階です。研究には100～200人分のデータが必要になるため、

ゼミの学生や先生方に協力を仰いでいます。

次の課題は上下方向の振動抑制です。振動をストレスに感じる人もいれば、逆に程よい振動でワクワク感や臨場感を味わいたい人もいます。そうした一人ひとりの好みに合わせた乗り心地になるよう、リニアモーターでシートを浮かせて制御する仕組み作りに取り組んでいきたいと考えています。

――実際の車いすユーザーに試乗してもらうことは考えていますか？

そうしたいのですが、まずは安全面や性能の評価を優先するため、学内の健常者を対象に実験を重ねていて、その成果や安全性を確認しています。また、フィールドワークとして、実際に車いすを利用されている方にインタビューなどを行い、よりニーズに合った車いすのシステムを構築していきたいと考えています。安全性や性能が十分に担保できた段階で、実際に試乗していただき、評価を進めていく予定です。



移動がもっと楽しく、快適に！パーソナルモビリティの新しい時代はもう始まっている。

――学生たちの取り組み方はどうでしたか？

実験は時間がかかって大変ですが、学生たちは意欲的に取り組んでくれていますし、私も学生と議論するのが好きなので、コミュニケーションを取りながら楽しく研究を進めています。私が大まかなテーマを投げかけると、彼らが主体的にアイデアを出してくれるのでとても助かりました。研究で重要なのは豊かな発想力です。自分で調べて自分の言葉で発表すると、学生自身も成長できると思います。

――今後はこの研究をどのように展開していきたいですか？

利用者の生体情報から一人ひとりに合った最適な乗り心地を予測して加速度や振動を自動で調整するだけでなく、乗っている間の気分も機械学習しQOLをどんどん上げていく。そんな新しいモビリティの開発が目標です。

乗り心地を制御するシステムは、自動車などにも応用できます。自動車業界も100年に一度の変革期と言われ、自動運転の研究・開発も進んでいますが、これからは車内の快適性が一番の付加価値になると思うので、先行して研究を進めたいです。

また、今は空港内を移動できる小型のモビリティや、航空会社が提供している車いすユーザー向け一括サポート手配サービスなどがあり、車いすの人が誰でも気軽にかけられる環境が整ってきました。モビリティの快適性を高める私たちの研究成果も、そうしたサービスと連動できると思います。

HUS CAMPUS NEWS 学内ニュース

酪農学園大学との共同開発アイスクリームが発売されました



詳しくはこちらをご覧ください



建築学科の学生が第16回ハーフェル学生デザインコンペティションにて最優秀賞を受賞しました



詳しくはこちらをご覧ください



学校法人北海道科学大学オリジナルミネラルウォーターのラベルが新しくなりました



詳しくはこちらをご覧ください



GRADUATE VISIT

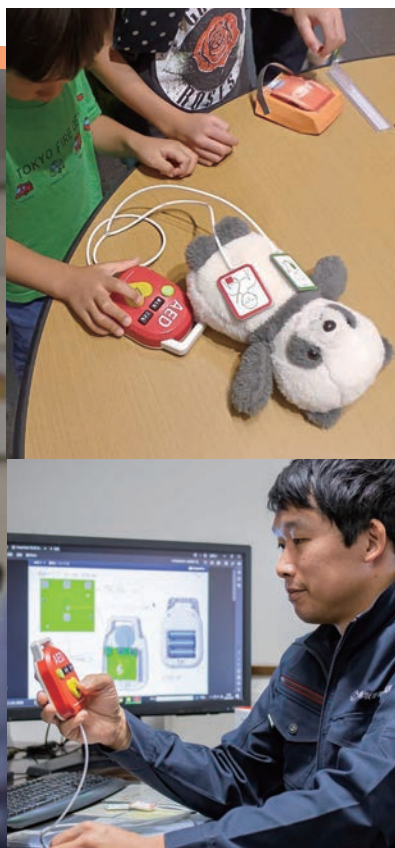
卒業生訪問

先輩の大学時代と
これからを聞く



株式会社坂野電機工業所
代表取締役

坂野 恭介
さん



Profile

北見市出身。2010年3月に北海道工業大学(現・北科大)医療工学部医療福祉工学科を卒業後、東京の医療支援会社に6年間勤務。その後、札幌の医療機器メーカーに転職し、2年間働いた後に地元の株式会社坂野電機工業所に就職。2024年6月に代表取締役就任した。

おもちゃ作りは初めてのチャレンジ。人とのつながりが壁を越える力となり、2年をかけて「トイこころ」が完成。

おもちゃのAEDを作ると宣言したものの、おもちゃ作りは未経験だったので、最初はとにかく手探りでした。インターネットで検索し、SNSでさまざまな人と交流し、まずはデザイナーとデザインをするところから開発をスタートさせました。ただ、実際に製品化するには3Dデータや基盤の設計も必要になります。何度も壁にぶつかりましたが、その度にそれを乗り越えるための人や会社と出会うことができ、なんとか2年の歳月をかけて完成させることができました。昨年末に先行予約を受け付けたところ、ありがたいことに1週間で売り切れて、たくさんの人たちに必要とされていることを実感しました。

子どもから大人まで、「トイこころ」の普及によってみんながAEDを使える未来へ。

おもちゃAED「トイこころ」は、限定1,000個の販売のうち、50個が全国の幼稚園に寄贈されることになりました。子どもたちが日常的にAEDを見たり、触れたりする機会ができることで身近に感じてもらい、将来的に心肺蘇生を学びきっかけになればと願っています。また、子どもをきっかけに親世代の大人たちにもAEDの興味関心が広がり、理解が深まっていけばと期待しています。

AEDが使われることで救われる命がたくさんあります。これからも「トイこころ」を通じて、AEDの使用率を高められるよう活動を続けていきたいです。AED以外にも大切な医療機器がたくさんありますので、そうした医療機器についても親しみやすく学んでもらえるような機会を創出していきたいです。

代から続く産業用装置や設備の修理を行いながら、自身の医療系の経験を生かしてAED(自動体外式除細動器)の販売や認知活動に力を入れています。

AEDをもっと身近なものに。子どもの遊びを通して学べるおもちゃのAEDの開発を決意。

北科大での学びは、振り返ってみると自分の大きな下地になっていると思います。卒業後に働いた病院やメーカーはもちろん、AEDを扱う今も在学中に得た知識が必要とされる場面が多々あり、北科大での4年間でとても貴重な時間だったと感謝しています。

AEDは誰もが人の命を救うことができる素晴らしい医療機器ですが、そのイメージは医療従事者と一般の方との間で大きな差があると感じています。自分で販売するようになり、未だに「怖い」「危険そう」という印象を持っている人が多いことを知り、ポスターを作ったり、AEDのペーパークラフトを無料配付したりしましたが、そもそも興味を持ってもらえないと、どんなに伝えても理解してもらえないに至りません。そこで、どうやったら興味を持ってもらえるのかを考えた結果、たどり着いたのが“ごっこ遊び”の中で使える“おもちゃのAED”でした。



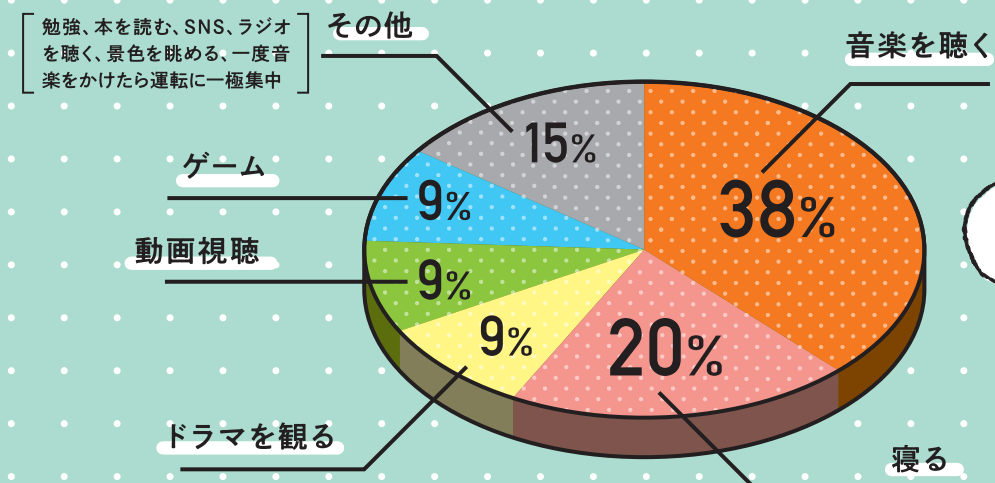
大学生は通学中、何してる？

北海道科学大学への通学手段は、バスや電車、自家用車などさまざま。忙しい大学生活の中で通学時間は、勉強や読書、音楽を聴くなど学習や自己啓発に役立てることができる貴重な時間です。本学の学生はこの通学時間をどのように有効活用しているのか、実際にアンケートをとってみました！



このページは、学生記者が担当しています。

あなたの通学中の過ごし方は？



音楽や動画視聴に使っているアプリやサブスクリプション

通学中におすすめライフハック

通学中の時間も私たち大学生にとっては有効に活用したいですね！今回の調査結果は、私たちにとってもすごく参考になりました！



- 1 Apple Music
- 2 Spotify
- 3 Amazon Music

その他
●LINE MUSIC ●YouTube
●Netflix ●dアニメストア
etc...

- 1 ポイ活ゲームが通学時間にちょうどいい！
- 2 たまにラジオを聴くと良い気分転換になる♪
- 3 通学時間が長いので、韓国のオーディション番組を観てます！
- 4 クラシックを聴いて落ち着いています。
- 5 朝の通学時間は、テーマパークで流れている曲を聴いてテンションを上げてます！

全学生を対象にアンケートフォームにて調査を実施
実施期間：2025年1月14日(火)～1月31日(金)
回 答 数：88件

取材して欲しいことなど
みなさんの声を
聞かせてください。



詳しくは、こちらまで！